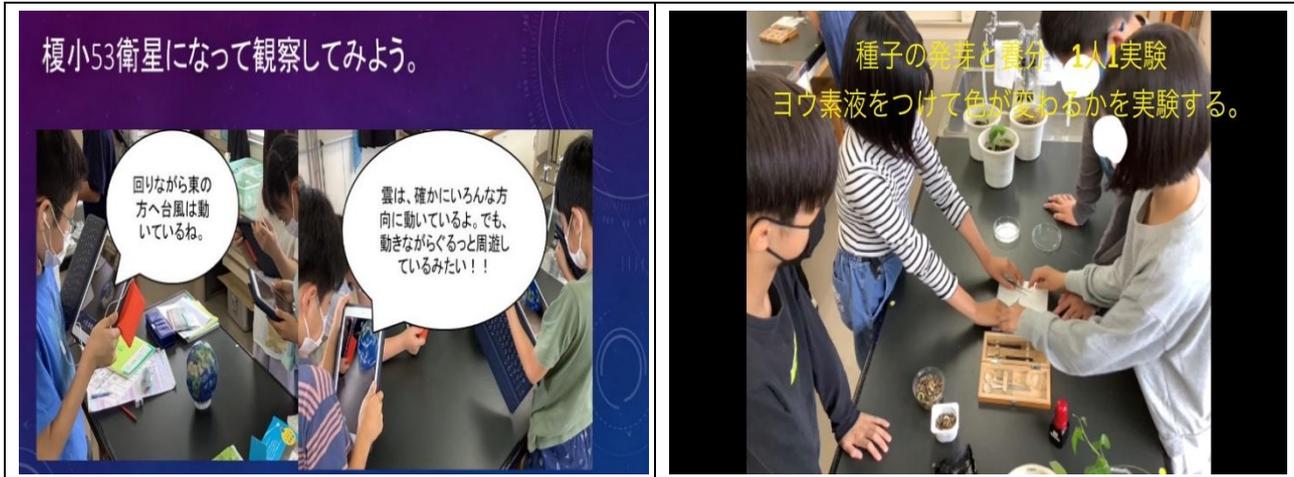


成果報告(ポスター)

2020年度助成 (助成期間：2021年1月1日～2022年12月31日)

タイトル	○豊かなかかわり合いを通して、主体的に学びを深めようとする子どもの育成 ～子どもが目を輝かせる授業の実現をめざして～		
所属機関	横浜市立榎が丘小学校	役職 代表者	学校長 仲川 美世子



実践の目的：	○学びに対する主体性を高めるために、与えられた課題を着実にこなす能力には長ける児童の実態を活かして友達の考えを聞いて、自分の考えを明らかにしたり、見方を変えたり、広げたりするよさを実感できるような「学びの場」を確保する。 ○交流によって、自分の考えを形成する喜びを感じる事が重点的に研究していくことでもあり、『主体的・対話的で、深い学びとは何なのか。』と、追及しながら授業改善をすることを通して、子どもの姿を見取りながら指導法を探り、指導力の向上につなげていく。
実践の内容：	本校の学校教育目標の具現化につなげていった1年目は、指導の充実を図るために、校内及び校外研修として、主に「安全指導」、「火器、器具、薬品の取り扱いについて」に特化して内容を準備して、教師間でも実験・観察に意義を感じ取れる楽しく学びの多い授業の展開を目指して研修を企画した。それらを活かして2年目は、実験・観察の意義を感じ取って授業計画をし、子どもたちが科学的な見方・考え方を自ら学び取り、意欲的に発言しつつある現状を踏まえて「学びあいによる深い学び」を目指した。新学習指導要領では、「博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用するように配慮すること。」となっており、学校現場でもどのように活用していくのかを検討している学年が多くみられるようになった。
実践の成果とその訴求点：	<p>○授業研究会の実施 与えられた課題を着実にこなす能力には長けるが、友達の考えを聞いて、自分の考えを明らかにしたり、見方を変えたり、広げたりするよさを実感できていないことを受けて、様々な状況に合わせた「学びの場」を確保することが必要であると考えた。</p> <p>○子どもの実態把握 iPadのアプリ機能のImovieで観察記録をまとめたり、タイムラプス撮影で時間ごとに現象の変化の記録を確認したりする子どもたちが始まったため、教師には気づく事ができなかった子どもの見方・考え方を映像で確認することが増えていった。子どもたちが実験中のつぶやきや気づきをロイロノートのテキストに記入したり、音声録音したりする児童もいて、机間指導やノート、ワークシートを回収して評価する以外の方法が増えた。</p> <p>○学習を活かして考察する場の設定</p> <div data-bbox="399 1825 853 2116" data-label="Diagram"> <p>「個人の学び」と「協働の学び」の広場</p> <p>観察・実証を通して、現象を捉え、自分の考えを明らかにし、他者の考えを聞き取り、自分の考えを修正・発展させる。</p> <p>「個人の学び」</p> <p>「協働の学び」</p> <p>観察・実証を通して、現象を捉え、自分の考えを明らかにし、他者の考えを聞き取り、自分の考えを修正・発展させる。</p> <p>「個人の学び」と「協働の学び」の広場</p> <p>「個人の学び」と「協働の学び」の広場</p> </div> <p>○授業構想から実践後の姿の教師間での研究討議 それぞれの意見が反映されるようになったことや気付いたことを明確にする。また、新たな課題については、共通の検証実験を行うようにしたことで、実際に、児童の飛躍的に力がついて来ている実感が、ノートや話し合い活動でも見られるようになってきている。</p> <p>○理科学習における校内研修安全指導、「火器、器具、薬品の取り扱いについて」の内容を準備して、教師間でも実験・観察に意義を感じ取ってもらえるように計画していった。初めて理科を教える教師でも自信をもって授業を行えるようにサポートをした。</p>



公益財団法人
日産財団
NISSAN GLOBAL FOUNDATION

理科教育賞ポスターセッション賞

投票用 参考資料

学校・団体名	横浜市立榎が丘小学校
--------	------------

○豊かなかわり合いを通して、主体的に学びを深めようとする子どもの育成
～子どもが目を輝かせる授業の実現をめざして～
〈学び合いによる考えの形成することを目指した授業づくりの充実をはかって〉



◎校内の敷地内を外回りに歩ける通路が、土手になっており、たくさんの植物や昆虫がみられた。児童が「バツラン」&smallcircledRとよんでいた所が学校全体の考えや意見を吸い上げ、話し合った結果、「わくわく自然複ランド」という名称が決まった。昆虫の住んでいる場所の特徴や在来種の発見など、自ら学ぶ意欲ある児童の姿がみられるようになった。

☆校内及び校外研修として、主に「安全指導」、「火器、器具、薬品の取り扱いについて」を特化して内容を準備して、教師観でも実験・観察に意義を感じ取ってもらえるように計画していき、楽しく学びの多い授業の展開を目指した。



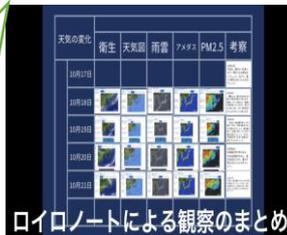
○1人1実験することで、自分事として問題解決に向き合うことができた。友達が実験しているときに、動画記録をし、実験経過を観察し自分の結果と比べることができた。



○子どもの実態把握 子どもたちが実験中のつぶやきや気づきをロイロノートのテキストに記入したり、音声録音したりする児童もいて、机間指導やノート、ワークシートを回収して評価する以外の方法が増えた。



1人1実験は、問題が自分事になり、解決したい思いも強くなったことから、友達の考えにも耳を傾ける要因にもなった。自分の考えを発言しなかった児童が積極的に述べる姿は、「学びあい」の場での主体性が育ってきているのではないかと考えられる。自分で立てた学習課題を実験の手順に沿って検証し、結果をまとめていった。学年に応じてワークシート、ノート記録、ロイロノートのテキストに記入することも慣れ、iPadへ迅速に打ち込んで記録する姿が目立つようになった。予想から根拠のある理由が見つかることで仮説となっていく思考は、楽しみながら科学的な見方・考え方が培われてきたのではないかと考える。実験中のつぶやきや発言に注目し、子どもがどんな所に目をつけたかを教師が机間指導しながら、メモを取って共有する場面で評価することが多くなった。



富士山レーダードーム館での見学も組み込むことで、気象情報の大切さをあらためて感じた子どもたちは、以下のようなことに気が付いた。

- ☆宇宙からみた台風や雲の動きを観察すると
 - ・天気予報ができ、気象情報を知ることができる。
 - ・災害に備えることができる。
 - ・楽しく観察できる。わくわくする。
 - ・今後も役に立つ情報を知ることができる。



◎生活科でもシャボン玉づくりを通して、「何度も試してみる。」「失敗の原因を考える。」等のじっくりと取り組む、思考実験する場面を多く設けた場面が理科の学習でも大切だということを教師間で共有することができた。公園探検でも見つけた草花や虫たちを一人ひとりが探し出し記録しているので3年生での理科の学習の導入がスムーズだったという声が教師間で交わされた。